

画像工学同窓会会報

消えゆくことば「写真」と「フィルム」

工専写真工業科・昭和22年卒 江越 壽雄

南蛮渡来のフォトグラフィーなる術に手を染めた最初の日本人は上野俊之丞で、フォトグラフの撮影と販売を実用化したのは俊之丞の息子の上野彦馬である、というのが定説ですが、フォトグラフィーを「写真術」、フォトグラフを「写真」と最初に翻訳した人物は定かではありません。

ピンホールやレンズを通して得られた画像は、レンズの収差や感光材料の感色性に起因する視覚的感覚のずれがあったにせよ、被写体をほぼ正確に再現していたので、ま(真)こと(事)を写す(移す)術で「写真術」あるいは「写真」としたのででしょうか。フォトの原語は「光の」という意味だそうで、フォトグラフを「照相」とした中国語の翻訳のほうが語源のニュアンスを伝えているようです。

「写真」という和製漢語は定着し、「まことを移す」という機能が数え切れない分野での

写真術の応用を促しました。ところが、いわゆるデジタルカメラが銀塩フィルムを使用するカメラの販売台数を追い越したところから「写真」という二文字に、疑問符が付きまして。「デジタル写真」の画像データは、撮影者自身の意思でパソコン上できわめて簡単に改変でき、しかもその痕跡を残さないことが明らかになったからです。

銀塩写真の改変は、肖像写真の分野では「修整」という重要な技術であり、新聞報道写真の分野では、技術的欠陥を補う「修正」は許されるとして、かつては印画の貼り込みや不明瞭な部分の書き起こしに「修正さん」という専門職が活躍しました。銀塩感光材料の「修整」や「修正」は、ネガあるいは印画紙の膜面を削ったり、鉛筆や絵の具で加筆するので、改変の証拠が残るのがデジタルフォトと異なります。

印刷業界からガラスとコロジオンの湿板を追放してカラー製版に活躍した銀塩フィルムは、印刷の工程がデジタル化された今日その影を潜めました。医療写真の分野ではXレイ機器のデジタル化で銀塩フィルムの使用量が減っていますが、画像改変の容易性ととの兼ね合いもあって、この分野での銀塩フィルムの将来は不明です。新聞報道写真の分野では完全デジタル化が進み、多くの新聞社では「暗室」は存在せず、「写真部」を「映像センター」に統合した新聞社もありますが、報道での最大の問題点は、デジタルフォトのデータ加工(画像処理)の容易性および改変の秘匿性で、厳しい倫理が求められています。

デジタルフォトは写真の一領域であって万能ではない、といわれはするものの、銀塩フィルムは化学的処理を必要とする消耗品であり、反復使用が可能で記録容量の大きい記憶媒体に、多くの分野で置き換えられていくのは資源、環境、コストの面から必然です。

Darkroomという英語は、すべて「陰鬱な部屋」と訳される日が来るのでしょうか。

総会・懇親会のお知らせ

平成14年度の定期総会および懇親会を下記の通り開催いたします。皆様お誘い合わせの上、是非、ご参加下さいませようご案内申し上げます。

記

開催日：2002年10月25日(金)
総会：18:00～18:30
議題：平成13年度事業報告・会計報告
 平成14年度事業計画・予算案
懇親会：18:30～20:00
場所：KKR HOTEL TOKYO
 (旧竹橋会館)
 東京都千代田区大手町1-4-1
 JR「東京駅」丸の内口から車で5分。
 地下鉄東西線「竹橋駅」3b出口直結。
 首都高速環状線「神田橋」出口または「一ツ橋」出口より5分。

会費：5,000円
 当日お支払いください。

出席される方は同封の振り込み用紙の出欠欄にご記入の上、10月15日(火)までにお申し込み下さい。



年会費納入のお願い

平成8年9月に、工芸写真会と芝葉印刷学部会を含む会員数約4600名の画像工学同窓会が発足してから6年が経過いたしました。同窓会報発行などの活動運営は、主に皆様からの年会費でまかなわれております。同窓会の活動を活発に行うために、会員の皆様には、是非、同封の振り込み用紙にて年会費(1,000円)を納入下さいませ、お願い申し上げます。

千葉大学画像工学同窓会
 〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33
 千葉大学工学部情報画像工学科内
 電話：043-290-3450 FAX：043-290-3490

画像工学同窓会ホームページアドレス
<http://image.tp.chiba-u.ac.jp/alumni/>



千葉大学画像工学同窓会西部支部総会報告

昭和44年卒 滝田 進弘



千葉大学関連の写真系・印刷系卒業生による同窓総会が画像工学同窓会として統一して実施されるようになって今日に至っております。従来、写真系は工芸写真会・印刷系は千葉会として独自に開催されていましたが大学の編成に合わせ統一されました。しかし、残念なことに現状では写真系・印刷系が完全に統一されたとは言い切れないのが西部支部の状況ではないかと思えます。



関西支部長の岩田克彦さん

今回の総会でも印刷系と写真系の出席者を比較してみても印刷系の出席者が多く、卒業生数が写真系・印刷系ほぼ同数である事を考慮すれば写真系出席者が増加して参加人数が接近したとき真の意味で画像工学同窓会になったと言えると思います。写真系卒業生のより積極的な参加が望まれます。

さて、平成14年度の総会ですが従来、大阪で開催しておりましたが昨年の総会時、同じ場所ではなく趣向を変えて京都での開催を岩田会長に相談したところそれは趣向が変化して良いと言うことで14年度の京都開催が決まりました。しかも、祇園祭期間でもあり鉾・山車の見物もできるので良い時期でした。

場所は同窓生が経営するロシア料理で有名な「キエフ」で開催しました。キエフは歌手の加藤登紀子の父上が経営していましたが今は義姉が経営しており千葉大学の研究生として2年間在学しました。ロシア料理店ではありますが和食・日本酒など当別メニューを用

意してもらいました。総会は岩田会長の開会宣言に続いて平成13年度の会計報告があり全員一致で承認されました。続いて矢口教授から千葉大の情報画像工学科の現況についてパンフレット「千葉大学工学部 情報画像工学科2002」を使って説明ありました。

続いて井下前会長の乾杯で宴会が開始されました。夜になって夜景も一段と美しく鴨川の床と四条通りを眺めながらパルプの話・鉱石の話・スキーの話・写真の話・山の話など大変多種にわたる情報交換ができました。

料理はロシア料理はもちろん鮎・ソウメンなども食することができました。また、お酒はワイン・ビール・日本酒してウオッカなど何でも有りの状況でした。ワインはグルジア産が逸品でした。また、井下前会長の発言で来年も京都でやろうということになり気が早いのですが来年の仮予約もしました。

尚、大学からは矢口・大野両教授、印刷学



乾杯の挨拶をする井上廣さん

会出版部からは中村幹編集長の参加がありました。参加人数は22名でした。

総会后、大野先生・矢口先生を宿へ案内するついでに鉾・山車を見学して回りました。人出はまだ早いこともあり本格的ではありませんでしたが暑い中で汗をかきながら見物したのでそれなりに祇園祭の雰囲気を感じていただけたのではないかと考えております。

私事で恐縮ですが本年7月から急な話で東京勤務になりましたが住所を変えてないため西部支部の所属ということで今後も活動いたしますのでよろしく申し上げます。その一歩として真の画像工学同窓会になるよう平成15年度は写真系の出席をもっと増えるように呼びかけをしていきますので宜しくお願い致します。

2001 年度卒業生・修了生就職先

2002年3月に社会へ巣立った、卒業生・修了生の就職先をご紹介します。本年度の画像系の就職担当は、矢口博久教授、小林範久助教授です。また、来年度は小寺宏暉教授、小関健一助教授が担当の予定です。いまだ厳しい経済状況を反映し、近年、就職活動が多様化・長期化しております。諸先輩方の暖かいご支援をお願いいたします。

工学部情報画像工学科(画像材料工学コース・画像システム工学コース)卒業生

Jastec, JCM, J-フォン, NECエレクトロニクス, NEC埼玉, NECソフト, NHK, NTTドコモ, NTTドコモ九州, NTTドコモ東海, Yahoo Japan, ウチダユニコム, オープンマジック, 京セラコミュニケーションシステム, 警視庁, コンパックコンピュータ, サンマイクロシステムズ, セイコーエプソン, ソニーマーケティング, 大日本印刷, ドコモ・システムズ, 凸版印刷, 新潟日報社, 日鐵溶接工業, 日本IBM, 日立デバイ

スエンジニアリング, フィールドインテック, 富士通PSC, 富士通, 富士フィルムソフトウェア, 報映産業, 三菱マテリアル, IMAGICA, NOVA, オービック, ガイア, 金羊社, クレイフィッシュ, クレスコ, ジェイ・クリエイション, テレビ東京, 東芝, 東芝OAコンサルタント, ナックイメージテクノロジー, ニスコム, ノル コーポレーション, 帆風, フジカラーサービス, レインボージャパン, 丸文, 真生印刷, 富士ソフトABC
[大学院修士課程進学先] 千葉大学, 東京大学, 東京工業大学, 日本大学
大学院自然科学研究科像科学専攻修了生

ARKシステム, IIJ, 旭光学工業, 味の素ファインテクノ, ウシオ電機, 沖電気工業, キヤノン, コンパックコンピュータ, 埼玉県警, 財務省印刷局, シャープ, 住友大阪セメント, セイコーエプソン, 大日本印刷, 東芝テック, 東北リコー, トッパン・フォームズ, 凸版印刷, 日本製紙, 日星電気, 富士写真光機, 富士写真フィルム, 富士ゼロックス, 富士通LSIソリューション, 富士通デジタルテクノロジー, 富士通電装, 三菱製紙, 横河電機, 理研計器, リコー, 朝日新聞社, 東芝, メニコン, 日立ソフトウェアエンジニアリング

[大学院博士課程進学先] 千葉大学

磯部孝先生を悼んで

画像工学科元助教 佐藤 雅子

悲しいことに、短い間に小瀬先生、阪口先生、小倉先生をお送りした悲しみも癒えない昨年10月、磯部孝先生がご逝去されました。

東京大学工学部計測工学科教授でいらした磯部先生は1974年(昭和49年)3月、東京大学を停年退官され、同年4月、千葉大学工学部写真工学科に教授として着任されました。1979年(昭和54年)3月に千葉大学を停年で退官されるまでの間、光工学の広い分野で学生、院生の教育、指導にあたられました。

また、その間に、以前からつとめていらした計測自動制御学会の測定標準研究専門委員会委員長としてのお仕事も完成されました。この

研究専門委員会が23回の会合を開いて行った測定標準の研究に関する広範囲な実態調査の概要は「物理測定と標準」のタイトルで共立出版社から1975年(昭和50年)に出版され、公表されております。

物理標準に興味をもっておりました私は、磯部先生の「blackbodyを勉強するように」とのお奨めを頂き、統計力学から真剣に勉強し直したことを昨日のように鮮明に覚えております。そして、このお奨めにしたがって本当によかったと、磯部先生のお奨めの「あのお一言」に感謝申し上げます。

磯部先生は千葉大学を停年退官された後の10年間を名古屋の中部大学教授としてつとめられ、学生の教育、指導にあたられました。そのあとは寺田寅彦先生のように、ユニークな物

理現象のご研究に熱中されたようでございます。そのご研究の一端を千葉大学工学部同窓会会報第27号に「逆立ちゴマの挙動解明」のタイトルでご紹介になっています。細密な図面が添付されており、大変、興味深く拝読いたしました。磯部先生は真の物理学者でいらしたのだと思います。そして、寺田寅彦先生のように、物理学者の感性あふれる随筆をお書きになっていらしゃいました。

私が最後にお目にかかりましてから、もう、何年にもなりますが、その時は房々としたヘアで、若若しく、お元気にお見上げいたしました。2年くらい前から体調をくずされた様子で、残念なことに昨年10月7日にご逝去されました。悼んで余りあるものがございます。謹んで、先生のご冥福をお祈り申し上げます。

同級生の?大江先生

大学3回卒 梅原 剛

「クックク…」とくもった声をする。シャイだった大江先生の笑い声だ。懐かしいが、もう聞かれない。

その先生に久しぶりにお目にかかったのは卒業後20数年たったある宵、「エッ、こんなところで」といったところで。さすが、松戸の工兵学校の便所を改造した教室で過ごした師弟の間柄のこと、それはJR新橋駅・烏森口のトイレでした。「先生お久しぶりです。で、このあたりに何のご用で」と、問いかけますと「いや、たいした用事ではない」「それじゃ、私のいきつけのところで」と左手を口のところへ持って行く仕種をしながら出掛けました。そこで、後輩になる水路部の米原剛君(漢字一文字違い)とも友人となりました。

それからは、工芸写真会の後などでみんなと一っしょにのみ歩くようにもなりました。

われわれは昭和30年卒の大学3回生です。

先生は昭和29年に写真科の教官となられ、われわれは先生の最初の学生、歳もあまり離れていない可愛い?教え子だったのです。大学3回卒はまとまりがよく、工芸写真会でもよく群れていました。あるとき「よし、大学から会長を」と然るべきところに根回しなどして同期の藤田をかづいだしたこともありました。

先生にとって「最初の教え子」が印象ぶかったのか、そのうちに「俺は同級生」だと言い出し、「先生は、大学3回卒の一員」となりました。

先生は鹿島の大洋村に「別荘」をお持ちで、来い来いと度々のお誘いがありました。そこで、お邪魔することになっていたのですが、ちょっとしたトラブルが発生、おじゃんになりました。先生は庭の草刈りをするやら、バーベキューのかまどづくりと、準備万端整えてお待ちくださったとのこと。あとで、代表がお詫びに伺いました。

なんとといっても、先生の晴れの舞台は叙勲、勲3等の受賞です。面には表わせねども誇らしく、

嬉しく、あの写真の男振り。そして、米原君や教え子たちの尽力による受賞パーティの成功。佳かったですね。

その後、念願の大洋村の訪問も実現しました。自ら買い付けに走って下さった鯉の洗い、先生手造りの鯉濃く。どれをとってもなかなかの出来で、料理はお得意だったようです。この夜もよく飲みました。

飲む話ばかりで研究成果のことなど何かないのかと叱られそうだが、実はよく知らないのだ。学校で教わったのは最後の1年だけだったので。

告別式の時の久保先生の甲辞で、アメリカでの研究留学のとき、登場したばかりのコンピュータを駆使してアニメの研究に苦勞されていた話を伺い、隣の席の後輩と感心しながらうなずきあいました。

先生お許しを…。そして、あと10年ほど見守っててください。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。合掌。

国司龍郎先生を偲んで

情報画像工学科教授・昭和37年卒 山岡 亞夫

昨年11月27日、突然、国司龍郎先生のご逝去の報に接し驚きとともに大変残念な思いを禁じ得ませんでした。東京練馬の妙法寺でお別れをさせて頂きました。その、一ヶ月前にも同じ妙法寺で元東京工芸大学教授、奥山滋先生のお通夜に参列させて頂いたばかりでありました。国司先生と奥山先生とは東京高等工芸専門学校での同期でいらして、その後も同じご専門で学問の道を歩んでこられたご朋友でありました。

国司龍郎先生は昭和32年に千葉大学の勤務され、それからご停年までの永きにわたり学生の教育と研究にご尽力されてこられました。昭和36年に第1回の研究グループの学生さんを社会に送り出され、その年以来、平成7年まで120名以上の技術者を世に送りだされ、わが国のみならずアジアの印刷産業界に果たされた功績は計り知れないものがあります。

国司先生は一時お体を壊されたこともありましたが芯がお強く、ご退官されるまで研究室の学生さん達と夏はハヶ岳に造られた山荘に、冬はスキーへと楽しく付き合っておられました。万年青年の先生にはまだ色々有形、無形のご

指導を期待しておりましたので、早すぎるご他界は残念でなりません。ただ、先生は大変お幸せで充実したご生涯を過ごされたかと羨ましく思っております。ご聡明な御奥様、ご立派なご子息様に囲まれた暖かいご家庭でありました。また、大学では印刷の色再現の分野では余人をもって替えられない先生でありました。暖かいお人柄とウイットに富んだお話、なにか問題があった場合には何時も学生や若い教官の立場で理解しようとされたことは、中々真似の出来ないご人徳でありました。

我々の同期生は松戸の校舎で写真製版のご指導を受けたのが先生との最初の出会いでありました。今でも思い出すのは湿版写真の撮影で、コロジオン、硝酸銀、膜剥がし、など見るもの、触るもの何もかも始めてで、特に減力や定着に急須にいれた青酸ナトリウムの水溶液を流すのにはいささかびつくりしたことは否定できません。特に手についた銀は石鹼などでは落ちず、ヨウ素の溶液に手を入れてヨウ化銀にして青酸化ナトリウムで溶かしてとり除くということを行っており、良くぞ命があったと今でこそ楽しい話題であります。当時、写真印刷工学科で写真系と印刷系合わせて四講座で、印刷系は宮氣先生、角田先生のお二人が教授で、川俣先生、

国司先生、松本先生が新進気鋭の教官というごじんまりとした学科でありました。それだけに連帯感のある家族的な雰囲気学科でした。同期の学生も19名という小人数で若い先生方とは友達のようなお付き合いをさせて頂いておりました。

先生はお若いときドイツのハイデルベルグに留学され、大変流暢なドイツ語をはなされておられました。個人的な想いででは、国司先生、今村舜仁先生(平成2年ご退官)、小関健一助教授、それに私の4名でイギリスのオックスフォード大学での国際会議に参加した後、ミュンヘンとハイデルベルグの印刷関連の研究所を訪問したのですが、留学時代を過ごされたドイツでは研究所での通訳をして頂き、で大変楽しく意義深いツアーであったことは忘れられません。

この世に生命を授かった瞬間にこの世からの離別の運命も授かるわけで、これには例外はありません。しかし、影響を受けた人への思いは残された者達の記憶には消えることはありません。その意味からは国司先生は我々後輩の中では永遠であるといわざるを得ません。これからも天国から安らかに暖かい眼差しで見守っていて下さる事を祈って止みません。合掌。

(株)印刷学会出版部で『印刷雑誌』を編集している中村です。恒例の、同窓会員あつての私の仕事を紹介します。登場人物は、全員同窓生です。

月日 毎度毎度のCD勉強会(古矢先生が会長)。今日はKSシステムズの根岸一男さんに最近のオンデマンド印刷機のマーケットのことを話してもらう。最近は15人程度の出席者で、その後いつも8人くらいで2次会へ。常連は根岸さんや日本プリンティングアカデミーで講師をしている森貞介さんや田中崇さん、共同印刷にいらした池田さん、東陽印刷の及川俊男社長、元日立インターメディアックスの樋口宗治さんといったところ。3次会くらいでは ミュラー・マルチニジャパンの小村博史さんや前田印刷産業の

前田貴康さんによくしてもらっている。以前常連だった平賀祐二さんはアイメックスという会社で9月に渡米とのことで少し寂しい。

月日 前述の前田さんの幹事でCD勉強会の呑み会が上野で開かれた。NTTクオオリスの鈴木猛くんと二人で2次会へ。久しぶりに後輩の話聞くのも楽しい。彼とは、その後NTT番号情報という電話帳の発行会社との仕事でも一緒になる。しかしその後、音沙汰がない。寂しい。

月日 『印刷雑誌』で連載の阿部徹雄さんが東京に来て、お昼を御馳走になる。名簿を見たら、昭和11年卒。健脚でとても元気。食欲もおう盛。『印刷インキ入門』の著者の相原次郎さんも改訂にあたりちょくちょく来社する。名簿を見たら昭和16年卒。うちの社長の山本隆太郎は昭和18年卒。みんな元気。

月日 日本印刷学会西部支部の講演会

で日帰り予定で大阪に行く。新幹線の終電ギリギリでのぞみに乗ったら日本プリンティングアカデミーの濱照彦校長にばったり。社内のサービスコーナー(売店)へ行こうと誘われ、二人ともそれぞれウイスキーのボトル3本を空ける(小ビン)。サービスコーナーは立ち呑み屋状態だった。

月日 印刷関連メーカーきもとの社長就任記者発表があり訪れたら、いきなり小林恒典さんがいた。現在顧問をしているらしい。弊社発行『リスフィルム知識』の著者なのだが、一度も挨拶していなかった。ごめんなさい。そしてきもとの新社長は、丸山良克さんで、これまた先輩。今度広告ください。

11月27日 國司龍郎先生の悲しい知らせが入る。11月30日の葬儀には、ともに先生の教え子である光野印刷工業の丸山普也さん、千葉大学の斎藤了一さん、グラパックジャパンの李岩さんと一緒に骨をひろった。(つづく)

平成13年度に、下記の皆様よりご寄付を戴きました。厚く御礼申し上げます。

【10口】小川圭一【9口】大原久雄・黒川静・日比野繁雄【4口】井下広・今井幹雄・内田美恵子・上曾秀孝・黒川豊治・五味克美・坂本洗二・佐藤行夫・正田章・杉本彩二郎・鈴木進・須長莞次・花岡芳郎・馬場信幸・原正美・土方英彦・三浦貞太郎・水野隆治・村田靖彦・米澤裕【3口】今城力夫・大澤郁夫・柿崎謙介・郷間基臣・鈴木英夫・日高芳典・平賀祐二・三浦英徳・山田敏雄・渡辺博【2口】浅井禎和・足立純一・飯田均・猪尾澄男・池田カツヤ・井沢清・市川勝道・伊東郁男・山義秋・山田秀夫・山根節雄・山本真理・山本朋子【1口】会田源吾・青木隆男・熱田進・甘利武司・安藤邦郎・安藤克治・池田宏・板井泰弘・市川伸裕・伊藤文夫・稲山朋宏・岩井恵美子・岩井正道・岩本日出生・上田頼人・白田邦人・内田浩二・

梅原剛・岡田貢・緒方俊文・岡本実・沖尚武・奥村正志・雄倉保嗣・小田透・小貫秀雄・小野光徳・小野正和・梶谷美保・片桐徹・金子茂・金子実・川口啓輔・川口勇・川口匡・川島誠・川端茂樹・川又健一・北村維敏・木下堯博・木村功・國司龍郎・倉本武夫・栗山賢司・桑原一・小出哲司・小林恒典・斉藤光範・斉藤延夫・境野誠哉・笹本邦司・佐藤晴邦・佐藤要助・澤中武志・設楽清・篠田豊・清水丈夫・下川原厚男・定田明・白川昭一・末光裕治・菅原大作・菅原勝彦・杉浦元美・鈴木洋・鈴木成義・関根慶治郎・芹口秀治・高瀬誠由・高橋英雄・武田市太郎・竹原悟・田邊功・玉井正義・築井泰彦・塚越俊二・土屋宜司・土屋直人・堤雄大・當間章雄・富山昌史・豊田芳州・中澤克紀・中田規夫・永田智久・永田ひとみ・中津井久・中村甚継・中村幹・中山隆麿・根本浩幸・野中通敏・野本拓夫・橋本博・八田嘉久・浜田聡・速水寿・針谷昌男・日隈昌彦・平林俊樹・平林正人・平山秀樹・広井敏男・広橋亮・藤井信行・藤森博・二木泰子・船見孝政・坂本忠夫・益田聖・松尾賢治・松永直之・松原鋭彦・丸山美恵子・三位信夫・水澤伸也・光本浩太郎・緑川洋行・三村一俊・宮田弘幸・宮武敏夫・宮原誠司・宮脇修三・三輪卓司・百瀬蔵・森田克己・矢口博久・山内進・山崎孝・山田溪・山本芳正・山本雅也・山本浩二・吉岡稔郎・吉川新一・吉野聡・若麻績一毅・若松伸一・渡辺晋・渡辺幸保・渡会一郎(敬称略)

2001年度(平成13年度)事業報告

1. 第6回 定時総会および懇親会の開催
定時総会および懇親会を平成14年10月5日(金)KKRホテル東京(竹橋会館)にて開催した。
総会は、日比野繁雄会長より挨拶があり、続いて会長が議長を務め、議題について審議を行った。[議題1]平成12年度(2000年度)の事業報告を甘利武司氏、会計報告を柴史之氏、監査報告を正田章氏がそれぞれ行った。審議の結果承認された。[議題2]平成13年度の事業計画および予算案が大野隆司氏により提案され、審議の結果承認された。続いて懇親会が開催された。参加者は30名ほどであった。
2. 会報の発行
画像工学同窓会会報No.4を発行した。(2001年9月)
3. 関西支部 平成13年度 総会・懇親会の開催
平成13年7月14日(土)午後6時より、大阪・東洋ホテルで開催された。参加者は20名程であった。
4. 幹事会の開催
平成13年7月16日(月)午後6時30分より、東京・アルカディア市ヶ谷で開催された。平成13年度の事業計画および予算案が検討された。
5. 卒業生を励ます会の開催
平成14年3月22日(金)午後2時より、千葉大学大会館で情報画像工学科・画像系と共催で日比野会長出席のもと開催された。この卒業生を励ます会は平成13年度の事業計画には予定されていなかったが、画像系の教官と幹事長及び幹事が相談し、日比野会長に了承を得て開催しました。ご了解をお願い致します。

2002年度(平成14年度)事業計画

1. 第7回定時総会及び懇親会の開催
日時:平成14年10月25日(金)午後6時より。場所:KKR HOTEL TOKYO(竹橋会館)。
2. 会報の発行
画像工学同窓会会報No.5の発行。
3. 関西支部 平成14年度 総会・懇親会の開催
日時:平成15年7月13日(土)午後6時より。場所:京都「キエフ」。
4. 幹事会の開催
電子メールでの会議を必要に応じて開催する。
5. 卒業生を励ます会の開催

日時:平成15年3月24日(月)午後2時頃より。卒業生を励ます会を情報画像工学科・画像系と共催する。場所:千葉大学大会館を予定。

画像工学同窓会平成13年度会計報告(平成13年4月1日~平成14年3月31日)

収入の部			
内 訳	予 算	決 算	差 額
前年度繰越金	8,904,262	8,904,262	0
総会会費	200,000	75,000	125,000
年会費・寄付	1,000,000	1,198,790	198,790
工学部同窓会より活動費	100,000	106,000	6,000
利 息	5,000	6,240	1,240
小 計	1,305,000	1,386,030	81,030
合 計	10,209,262	10,290,292	81,030
支出の部			
内 訳	予 算	決 算	差 額
委員会費	100,000	58,905	41,095
新卒者を励ます会	0	170,000	170,000
総会経費	500,000	167,269	332,731
通信費	600,000	586,221	13,779
会誌編集発行費	250,000	208,436	41,564
活動費	100,000	171,380	71,380
支部活動推進費	100,000	85,950	14,050
雑 費	10,000	178	9,822
慶弔費	30,000	17,773	12,227
小 計	1,690,000	1,466,112	223,888
次年度繰越金	8,519,262	8,824,180	304,918
合 計	10,209,262	10,290,292	81,030
次年度繰越金(平成13年度残高)内訳			
定期預金(千葉銀行)			7,000,000
普通預金(千葉銀行)			66,882
郵便振替			1,721,730
現 金			35,568
合 計			8,824,180